



# よるんちよう 議会だより

第119号

2016年／平成28年5月25日

発行 与論町議会  
編集 広報常任委員会  
〒891-9301

鹿児島県大島郡与論町茶花32-1  
TEL&FAX 0997(97)3201



国指定重要無形民俗文化財十五夜踊り

予算審議での主な質疑

(3)

平成28年度事業箇所

(8)

3月  
定例会

一般質問

6人が登壇！町政を問う

(10)

\* 紹介：表紙左上のお面は本町の国指定重要無形民俗文化財「十五夜踊り」1番組に登場する「朝伊奈」の面です。踊りの場面では、絶対的な権力者である「うぷすー」（大老）の役で登場します。

# 一般会計当初予算は 46億7329万円 前年度比7.89%増

平成二十八年第一回定例会は、三月九日から十八日まで十日間の日程で開かれた。本定例会に提出された議案等は、平成二十八年度各会計予算案7件と、平成二十七年補正予算案7件、条例案4件、一部を改正する条例案4件、全部を改正する条例案1件、その他2件、承認2件である。

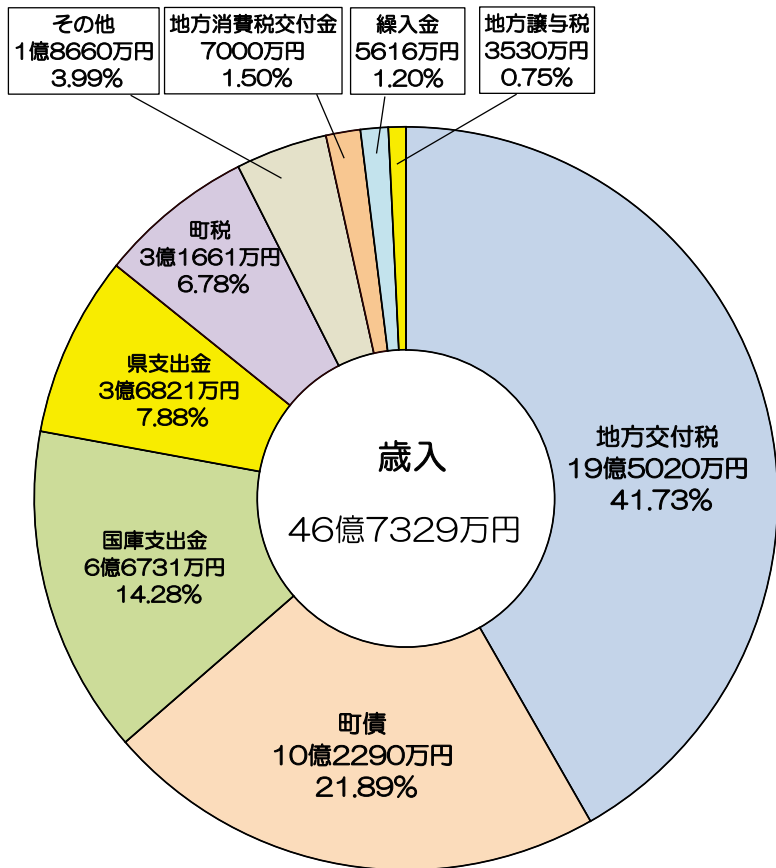
平成二十八年度各会計予算案は町長の提案理由の説明の後、総括質疑が行われ、予算審査特別委員会へ審査を付託、十八日の最終本会議でいずれも原案のとおり可決された。

このほか、平成二十七年補正予算案等全て原案のとおり可決された。

十六日の一般質問には6人が登壇、行財政全般にわたって活発な意見が交わされた。

## その他の内訳

利子割交付金	46万円
配当割交付金	25万円
自動車取得税交付金	300万円
地方特例交付金	20万円
交通安全対策特別交付金	50万円
分担金及び負担金	2138万円
使用料及び手数料	3920万円
財産収入	1085万円
諸収入	1億1076万円
合計	1億8660万円

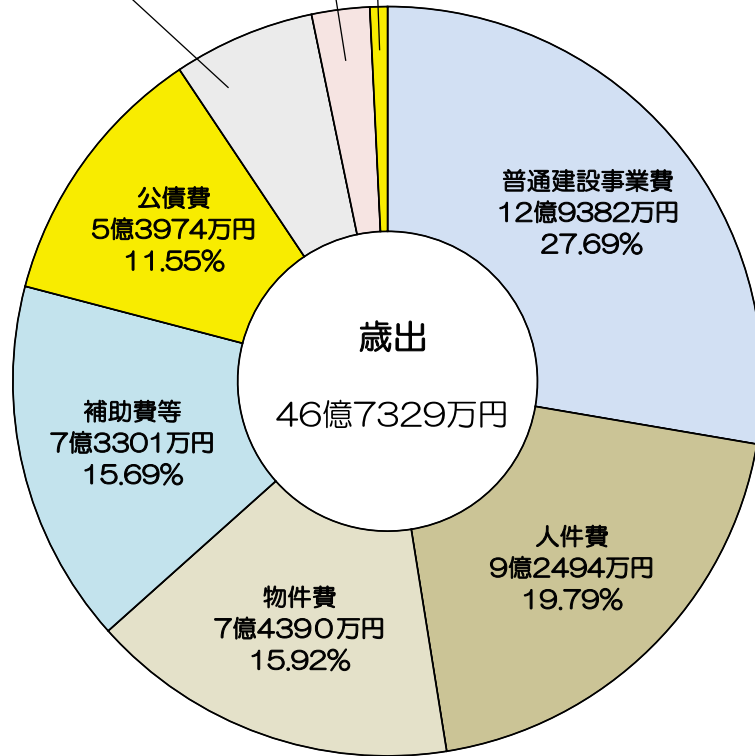


平成28年度一般会計予算（性質別）歳入

繰出金の内訳

国保事業勘定繰出金	5391万円
介護保険特別会計繰出金	1734万円
と畜場特別会計繰出金	25万円
農業集落排水特別会計繰出金	1624万円
後期高齢者医療特別会計繰出金	2907万円
合計	1億1681万円

扶助費 2億8575万円 6.11%	繰出金 1億1681万円 2.50%	その他 3531万円 0.76%
--------------------------	--------------------------	------------------------



平成28年度一般会計予算（性質別）歳出

その他の内訳

維持補修費	1539万円
積立金	624万円
貸付金	1188万円
予備費	180万円
合計	3531万円

# の予算審議で 主なもの質疑

## 一般会計

### 総務企画課

**問** 新ごみ焼却施設建設工事費の財源は、県の担当職員から過疎対策事業債で足りなければ一般廃棄物処理事業債で充当できると聞いているが、実際の予算措置はどうか。

**答** 当初予算では過疎事業債で計上している。県が4月にヒヤリングを行い県内全体を合計した後に調整して各市町村に割り振る。足りない分は、一般廃棄物処理事業債やその他の起債で充当できるよう検討したい。

**問** ふるさと納税推進費を計上しているが、どのように推進するのか。

**答** これまで謝礼品として地元の産物を集めて送ってきたが、平成28年度から地域おこし協力隊を2人配置するので、特産品を新たに開発するなど町のPRを兼ねて取り組んでいきたい。

**問** 庁舎建設の今後のスケジュールはどうか。

**答** 昨年までに想定していたスケジュールは遅れている。基本構想も平成28年度にずれ込むことになる。基本計画や着工は今のところ何年度ということはないが、できるだけ

急いで取り組みたい。

**問** 緊急災害用石油備蓄費500万円の説明を。

**答** 以前、ガソリン等が枯渇したことがあり、台風災害が発生しやすい7月から2月までの期間、有村商事のタンクに通常よりも上乗せをして備蓄するための費用である。災害がなければこの費用は戻ってくることにしている。



石油備蓄タンク（地下）

税務課

問 固定資産標準地鑑定評価の農地に関しての評価はどのようにしているか。

答 町全域の9地点において3年に一度、専門機関に委託して評価している。

町民福祉課

問 火葬場の指定管理はどうなっているか。

答 「J A」、「ていんとう」を指定管理の対象と考えているが、検討する段階まで至っていない。いずれは、指定管理をする方向で進めていきたい。



火葬場

問 地域包括支援センターなどで勤務する臨時職員の賃金は職に見合った額であると考えているか。

答 職員の業務は増加しており、現在の待遇では厳しい状況にあると考えている。

問 課長会や職員組合でも積極的に臨時職員の待遇改善について取り上げてもらいたい。

答 こども園や、役場内の臨時職員の献身的な働きに支えられている。臨時職員の待遇改善に取り組むことは、職員のやる気にもつながってくると思う。

建設課

問 地方道路交付金事業の工事請負費が昨年度と比べ後退しているように感じる。上田線や那間茶花線は1000万円にも満た

ないが、県から予算縮減の指示があったのか。

答 予算要求が少なかつたということではなく、事業の年度配分を考えた結果である。計画的に平成31年、32年に完成させる計画を進めている。

問 港湾管理費にコストル石除去重機賃借料とあるが、これはどこに使うのか。

答 コースタルリゾート内の、石も含めた防風柵に山積みとなって



コースタルリゾート

いる砂を除去する費用で、重機の賃借料が含まれている。

産業振興課

問 国や県に対し、将来に向けた農地や農家の在り方について青写真を描き、提案型の農政を推進できないか。

答 将来を見据え仕事をすべきだが、手が回らない状況である。

問 堆肥センターは、当初5年をめどに委託するということであった。町長の施政方針に示されている業務の外部委託及び指定管理者制度の検討はしているか。

答 堆肥センターの平成26年度収支決算は、約1400万円の赤字となっており、委託できない状況にある。また、子牛の価格が高騰している増頭傾向にあ

用して整備できないか検討している。

商工観光課

問 船会社や航空会社、旅行会社を対象にモニターツアーを誘致して、誘客活動を展開する必要はないか。モニターツアーに参加した人からいろいろ指導を受けることができれば、誘客活動にもつながる。また、韓国など海外から観光客を募集したらどうか。

答 旅行会社には与論を知らない若い社員もいることから、昨年は1回だけ開催した。平成27年度の地域創生加速化交付金を活用して、モニターツアーを予定しているが、まだ国から補正予算の決定がない。外国からの誘客については、沖縄に来る外国人をターゲットに取り組んでいきたい。



堆肥センター

問 漁協施設整備事業についての要望があったが、経過はどうなっているか。

答 製氷施設は緊急性から平成27年度事業で整備した。残りの事業については平成28年度の地方創生交付金を活



ヨロンマラソン2016

**問** ヨロンマラソンの宿泊状況はどうだったか。今後の宿泊の需要と供給の見通しは。

**答** ホテルや民宿は、ほぼ100パーセント満室の状況であった。民泊の申し込みはなかった。簡易ホテルが建設中であるが、需要と供給のバランスについては、供給不足であると考えている。

**環境課**

**問** 海岸漂着物対策事業予算の内容について説明を。

**答** 国費が95パーセントの事業で海岸清掃のための作業員を2人配置する。清掃状況を主要海岸である12海岸と、その他の海岸に分けて県に報告する。土日祝日以外、毎日8時30分から17時15分まで2人体制でビーチクリーナーなどを活用して清掃を行っていく。

**教育委員会**

**問** 方言の危機的状況は方言を聞くことができないうことである。社会人の中にも方言を聞くことができないう世代が多くなっている、方言を残していくための大きな課題となっている。学校で取り組むのは遅く、幼児期に方言を浴びせかけること

が必要である。サミットを機会に島ぐるみで取り組んでほしいが。

**答** 与論小学校のみが10時間のカリキュラムをつくっている。来年度は、全小中学校に各学年2時間以上方言の教育課程を編入するように工夫した。英語教育も同じように文化平等で取り組む。

**問** 国民文化祭でのシンポジウムの中で、十五夜踊りをみんなの祭りにしようということがあったが、方策は今どうなっているか。

**答** 品位を崩さず、町民が参加できるように祭りとなるよう町民の意見を取り入れながら担当と検討していきたい。

**特別会計**

**国民健康保険**

**問** 繰入金が5300万円を超えているが、

今のままでいいのかわ。将来的にどのように移していくか。

**答** 平成30年度から県に運営主体が移行する。国では、一般会計からの繰り入れが増えないよう基盤強化を図る対策を講じる方向で進めている。

**水道事業**

**問** 昔、台風時には断水があったが、現在は万全な態勢が整えられているか。

**答** 最近、台風時に断水したことはない。台風時には、指定工事店と応急協定を結んでおり、断水しないよう態勢を整えている。

**農業集落排水事業**

**問** 未収金を不能欠損処分することが懸念されるが、一般会計から莫大な金額を繰入しているの徹底して徴収に努めてもらいたい

が。 どうしても徴収できないときは不能欠損処分をするしかないが、徴収に努めたい。

**問** 滞納があった場合には、速やかに条例に基づいて一定の措置をしたほうがいいと思う。債権管理のあり方は、水道課だけの問題ではない。いろいろな形で把握しながら検討することも必要ではないか。

**答** 検討していきたい。

**介護保険**

**問** 介護給付額が減になるといふことだが、主な理由は何か。

**答** 平成27年度に介護保険料の改正があり、老人クラブ等7会場を訪問して介護保険の制度の仕組みや介護保険料が何に使われたかなどを説明した。使えば使う分だけ介護費が上

**と畜場**

がり、自己負担が増えることを周知することができたことが減額につながったのではないかと考えている。また、台風の接近時にあらかじめ避難する人がいなかったため、施設利用料が減ったのも要因の一つだと思う。

**問** 現在工事をしているようだが、何の工事か。

**答** これまで汚水を垂れ流しにしていたが、県からの指導もあり、浄化槽の設置工事を行っている。



浄化槽が設置されたと畜場

# 採択された陳情・意見書



南板畑農道（仮称）

◎南板畑農道（仮称）の早期改良舗装整備の陳情  
 陳情者 那間自治公民館  
 館長 山下健勇  
 受益者代表 徳田富秀

**採択理由** この農道は、周辺の地域住民の生活道路としてだけでなく、地域営農のための交通路としても頻繁に利用されているが、轍が多く通行に支障を来し、バイク等の転倒を防止するなど、交通の安全対策を講じる必要があることから、全会一致で採択。

◎軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口などの設置を求める陳情  
 陳情者 大阪府東大阪市 軽度外傷性脳損傷仲間  
 代表 藤本久美子

**採択理由** 軽度外傷性脳損傷・脳しんとうは、追突事故や転落事故のほか、柔道やラグビー、サッカーなどのスポーツ等で頭部に衝撃を受け発症する病気であるが、その危険性についての知識や認識が十分に理解されず、適切な対応や治療が後手に回ってしまい、重篤な状態となるケースが多々あるとのことである。

相談窓口の設置等を求めるものであり、陳情の趣旨は賛同できるものと判断し、全会一致で採択。

**軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知、予防及びその危険性や予後を相談可能な窓口などの設置を求める意見書**

軽度外傷性脳損傷である脳しんとうは、追突事故や転落事故のほか、柔道やラグビー、サッカーなどのスポーツでも発症する。主な症状は、頭痛、めまい、ふらつき、耳鳴り、物が見えにくい、呂律が廻らない、しびれ、軽い麻痺、味覚や臭覚の減退、物忘れ、集中力の低下など、複雑かつ多彩である。脳しんとうを受傷しても通常、生命を脅かすことはないが、その危険性についての知識や認識が十分に理解されず、適切な対応や治療が後手に回ってしまったために、1割から2割の人が治らず重い後遺症を残して苦しんでいる。このことから、国においては、医療機関は

もとより、国民、教育機関への啓発・周知をより一層図るとともに、予防措置の推進と各自自治体での医療相談窓口の設置など適切な措置を講じるよう強く要望する。

平成28年3月18日  
 与論町議会

**無電柱化の推進に関する法整備を求める意見書**

地域住民の生活環境の改善や地域の活性化を図るため、とりわけ防災力の向上や安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興等の観点から、無電柱化の取組を計画的かつ円滑に進めることは極めて重要である。

しかしながら、欧米はもとより、アジアの主要都市と比較しても我が国の無電柱化割合は著しく低く、近年異常気象等の災害による

電柱の倒壊に伴う救援救助等への影響や、痛ましい通学児童の交通事故、急激なインバウト効果による海外観光客の増加などから、無電柱化に対する地域の要望は極めて強いものとなっている。

ついては、国会において、災害の防止、安全で円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図るため、無電柱化の推進に関し、基本理念や責務、推進計画の策定等を定めることにより、施策を総合的、計画的かつ迅速に推進し、公共の福祉の確保や生活の向上、地域経済の健全な発展に貢献する無電柱化の推進に関する法律の早期成立を図るよう強く要望する。

平成28年3月18日  
 与論町議会



電柱

# 所管事務調査報告

## 総務厚生文教常任委員会

平成27年12月21日に沖縄県の読谷村で、読谷村コミュニティバスの運行について、午後からは、沖縄県庁で、沖縄県の離島航空路・航路運賃及び貨物輸送コスト軽減対策について調査を行った。

読谷村では、平成9年に役場庁舎を読谷飛行場跡地に移転したが、役場への交通アクセスが整っていないかったため、路線バス会社に運行要請をしたところ、採算がとれないとの理由から実現できなかつたことから、平成11年から最寄りの県道バス停から往復相当分のタクシー運賃を、1日1回限りで助成するタクシーチケット助成事業を実施したとのことである。その後、平成20



コミュニティバス

年に役場の隣接地に文化センターや健康増進センターなどの公共施設等が整備されたことから、チケット利用者数が増加したため、平成21年4月からコミュニティバスを導入したとのことである。

読谷村は、コミュニティバスを運行するに当たっての基本方針として、①循環型社会の形成に寄与する優しい交通手段として村づくりに貢献すること、②少子化に対応し児童生徒に優しい村づくりに寄与すること、③高

齢者等の活動機会を増やし、元気で明るい高齢社会に寄与すること、④既存バス路線を補完する交通手段として公共交通全体の利便性の向上に寄与すること、⑤村内各地から村民センター地区へのアクセス性を高め、村民福祉に貢献することの5項目を掲げて、ユニバーサルデザインの発想による福祉環境の整備に尽力されていた。

次に、沖縄県庁での調査には前島明男沖縄県議、禧久伸一郎鹿児島県議が同行し、適切な指導・助言を受けることができた。

沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業は、定住条件の厳しい沖縄県内の離島について、航路業者、航空業者、市町村及び県が連携し、離島住民等の航空運賃及び船運賃を低減して離島の定住条件を整備



読谷村での所管事務調査

するもので、平成24年度から導入されたとのことである。船賃で約3割から7割、航空運賃で約4割の運賃低減を実現していた。

離島生活コスト低減事業では、対象離島市町村の登録事業者である小売店に輸送される食品や日用品等の補助対象品目に係る沖縄本島・離島間の輸送経費を、航路事業者等に対して補助しているとのことである。

農林水産物流通条件不利性解消事業は、農林水産物の県外出荷に對し、大消費地から遠隔地にある輸送上の不

利性を軽減するため、出荷団体が県外出荷する際の輸送費の一部を補助しているとのことである。対象品目は、野菜15品目、花き13品目、果樹12品目、水産物9品目のほか、甘しよ、薬用作物、リュウキウウマツ等の県産材、きのこ、肉用牛、豚などの55品目であるとのことである。

その後、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄北方担当大臣事務所を表敬訪問した。両新聞社では、今回の調査の目的と概要を説明するとともに、与論・沖縄間の航空運賃軽減の取組内容を報告し、沖縄北方担当大臣事務所では、与論・沖縄間の航空運賃の軽減が実現できるよう要請した。

後日、沖縄県が沖縄振興法に基づく一括交付金を活用し、沖縄・与論間、沖縄・奄美間

の航空運賃を軽減するため、鹿児島県と連携して助成する方向で調整していることが報道された。

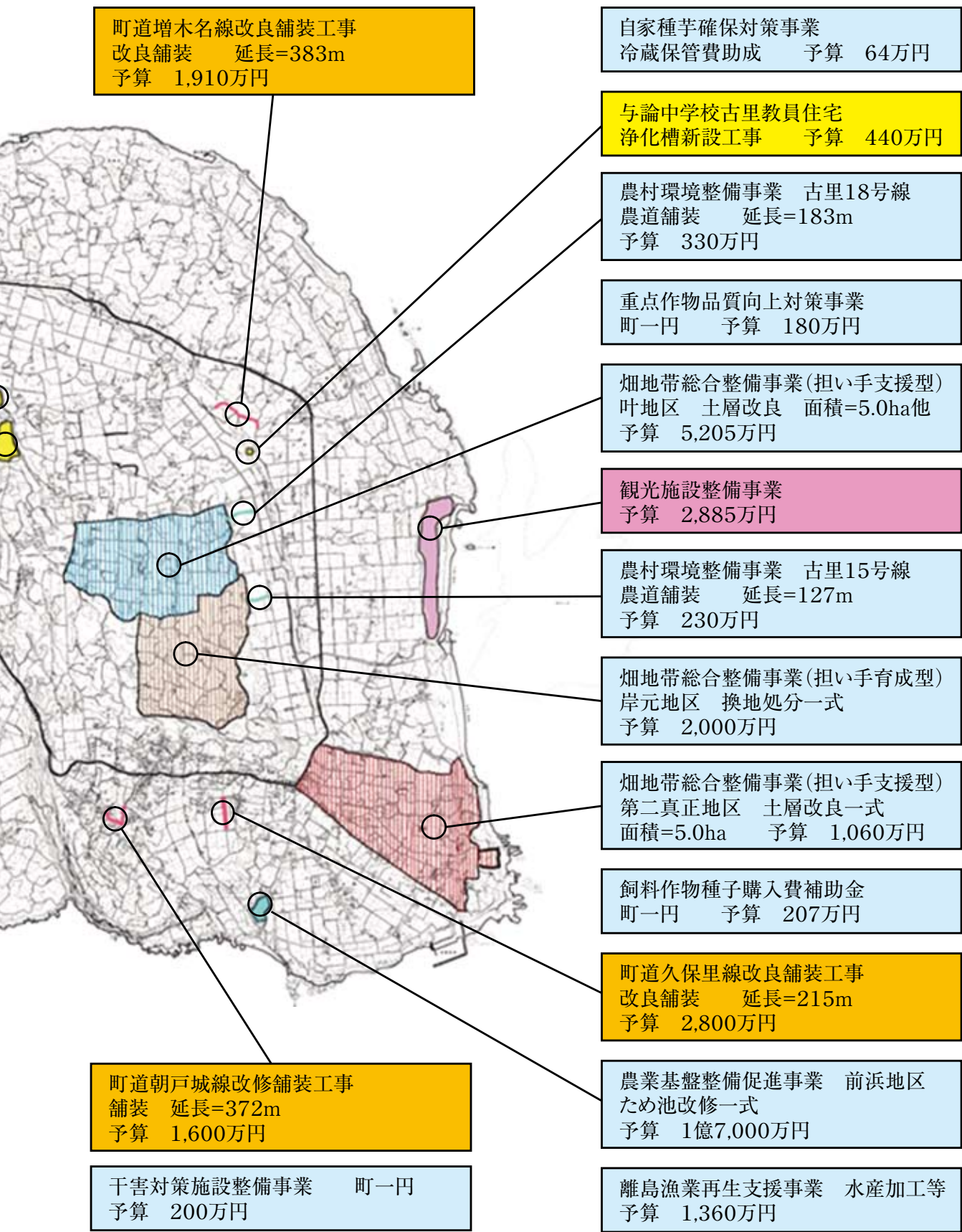
以上が調査の概要であるが、当委員会としては、今回の調査を踏まえ、次の2つを提言する。

1 路線バスの運営の見直しは、福祉・観光面など影響が多岐にわたることから、基本計画の策定はコンサルタント等に委託するなどして、関係機関等で検討委員会を設置し、十分に論議を尽くしながら進めること。

2 与論・沖縄間の航空運賃が軽減されることを踏まえ、実効性のある施策の早期展開及び沖縄との一層の交流促進を図ること。

以上総務厚生文教常任委員会の所管事務調査についての報告を終わる。

# 事業箇所位置図





# 平成28年度

産業振興課

教育委員会

環境課

建設課

観光課

多目的屋内運動場トイレ新設工事  
予算 300万円

多目的運動広場整備事業  
予算 1億8,450万円

園芸施設整備支援事業 町一円  
予算 216万円

さとも生産拡大対策事業  
種子購入費助成 予算 350万円

茶花漁港水産生産基盤整備工事  
予算 1億円

町道那間茶花線改良舗装工事  
改良舗装 延長=50m 予算 500万円

町道船倉茶花線改良舗装工事  
改良舗装 延長=70m 予算 950万円

新ごみ焼却施設建設工事業  
予算 7億1,663万円

辻宮住宅ストック総合改善事業  
予算 900万円

与論町沿道景観形成推進事業  
延長=250m 予算 596万円

県営海岸保全整備事業(高潮対策)  
実施設計一式 予算 2,160万円

農林水産物輸送コスト支援事業  
予算 2,341万円

奄美群島水産物輸送コスト低減実証事業  
予算 434万円

農業創出緊急支援事業  
(ビニールハウス整備)  
予算 6,210万円

環境保全型農業直接支払交付金事業  
町一円 予算 110万円

町道上田線改良舗装工事 改良舗装  
延長=70m 予算 980万円

造林事業 苗木購入費助成  
予算 59万円

優良素牛導入費補助金  
町一円 予算 810万円

さとうきび優良種苗供給確保事業  
町一円 予算 42万円

町道維持補修工事  
部分改良 那間茶花線(宅急便前)  
千迫線(空港トンネル)  
予算 1,000万円



# 一般質問

## 6人の議員が登壇、町政を問う

### 青年等就農計画制度の活用と推進を

### 町長 給付金を活用して新規就農者の育成確保に取り組む。



高田豊繁議員

#### 新規就農者の支援対策

**高田議員** 農業経営基盤強化促進法に基づく新規就農者の増大を図るための青年等就農計画の認定状況、青年就農給付金の給付状況はどうなっているか。また、町長は、青年等就農計画制度を今後どのように活用し、どう推進していく考えか。

**町長** 認定新規就農者制度は、平成26年度から始まった制度で、本町では1人認定されている。青年就農給付金制度は、研修中に受給

できる準備型と営農開始後に受給できる経営開始型があり、本町では準備型を1人、経営開始型を6人が受給している。

昨年度から新規就農者支援協議会を設置し、給付金を活用しながら、先進農家での研修生の受入れも行っており、今後も新規就農者の育成確保に取り組んでいく。

#### 福祉サービス業務の運営強化対策

**高田議員** 社会福祉協議会においては、障害者自立支援協議会の設置に伴う相談支援業務やデイサービス等の介護福祉業務が増大していることから、有資格

者の相談員や職員を増員し、運営強化を図る必要があると痛感されるが、町長は、要員の配置や増員に伴う補助金等の拡充計画についてはどう考えているか。

**町長** 現在、介護相談支援数は、年間1人の相談支援員で50件前後となっており、それに伴う計画・アセスメントなどを実施している。受皿としての事業所が足りないことも課題となっている。また、島内の民間病院の通所介護が閉鎖されることに伴い、対象者が20人から30人以上に増加することから、スムーズな運営が危惧される状況にある。今後、相談支援事業所運営の事

#### 保安林の整備

業費等を確保しつつ、資格取得やスキルアップ研修等については積極的に支援し、増大する需要に適切に対処していきたい。

**高田議員** 寺崎海岸は、先の大型台風によって防風防潮林が壊滅し、背後地への災害が懸念されるが、県と連携し



寺崎海岸（防風防潮林）

早急に保安林整備を推進する考えはないか。

**町長** 寺崎海岸の暴風防潮林は、指摘のとおり台風等で壊滅し、後背農地を含む生活圏に被害を及ぼすおそれがあることから、県と協議を行い、保安林緊急改良事業等による整備を検討していく。

**高田議員** 整備箇所は個人名義になっているようだが、今後どう対処していく考えか。

**町長** 個人名義の保安林については、保安林指定の承諾を得る必要があるが、指定による伐採の制限、他用途への転用制限等のほか、恩典についても説明し事業への理解を求めていく。

# 新ごみ焼却処理施設の工事契約金額は 町長 11億9988万円で契約し平成29年3月に竣工の予定。



町 俊策議員

## 環境保全対策

**町議員** 新ごみ焼却処理施設の建設については、くい打ちの基礎工事が始まっているが、本計画は、最終的に期別の工事内容も含めて幾らの金額で工事契約しているか。

**町議員** 周辺の環境美化等については、どのように配慮されているか。

**町長** 新ごみ焼却処理施設の建設については、平成27年8月に11億9988万円で工事請負契約を締結し、平成29年3月の竣工を

**町長** 東面を除く三方に暴風塩害対策としての築山（つきやま）を設け、塩害に強い植栽



くい打ち作業

目指している。去る2月15日からくい打ち工事を開始し、3月末までに83箇所のかい打ち作業を完了する予定である。プラント機器の製作についても、愛知県松山市の工場が始まっている。現在、平成27年度の出来高5億3743万円、進捗率44・7パーセントを目指して業務が進められている。

**町議員** 現在、リサイクルセンターに搬入された一般廃棄物は野面に分類・集積してあるが、これを町民が廃棄する際に、自分たちで分類し廃棄できるように廃棄物ヤードにコーナー（仕切り）を設置することで、管理を容易にし、景観を保持するとともに、台風時の飛散を防止して安全性を確保する考えはないか。

**町長** 町民がごみを分



リサイクルセンターの一般廃棄物

類しやすいように配慮するとともに、異常時の飛散を防止して安全性を確保できるように方を期していく。また、リサイクルセンターの粗大ごみの分別状況等と併せて、環境教育の場として活用できるように周辺の景観整備も含めて検討していく。

## 監査結果に基づき事務改善

**町議員** 定期監査の結果、指摘された事項をどのように認識し、その改善対策を課・機関等の組織でどのように議論し、具体的対策をどう講じているか。

**町長** 監査の結果は、適正かつ効率的な行政運営を推進する上で最も重要なことから、真摯に受け止め、適切な対応に努めている。特に、指摘内容により全庁的な共通事項は、課長会等で協議し理解を図りながら、改善を指示している。また、部署ごとの指摘事項は、それぞれの部署で担当者らに改善内容を説明し、適正な事務処理の徹底を図っている。

今後とも指摘事項については、繰り返し指摘されないよう職場研修などを通じて、職員の資質向上を図りながら、事務事業の改善や組織及び行財政運営の合理化に努めたい。

# 公園整備や植栽事業で環境・景観の美化と保全を

町長 島にある樹木を活用して公園整備等を進めていく。



野口靖夫議員

## 観光振興対策

**野口議員** 魅力ある観光地づくりを進めるため、本町の地域資源である恵まれた美しい自然環境を再生するとともに、他に類のない公園整備や植栽事業を推進し、環境・景観の美化と保全に努める考えはないか。

**町長** 島にある樹木をできるだけ活用し、与論島の玄関口である港・空港周辺の公園整備及び周辺美化事業と、メインの観光スポットである大金久海岸周辺の公園整備を進めていく。  
また、地方創生加速化交付金を活用し、テレビ番組等の誘致やイベントを開催し、国内

外に広く情報発信を行い入込客の増大を図っていく。

**野口議員** 地域資源をいかした特産品の開発を強力に支援するとともに、ターゲットを修学旅行や各種スポーツ大会、合宿等の誘致にしほり、情報発信とPR活動等に取り組む考えはないか。

**町長** 地域おこし協力隊員と協力しながら、特産品の開発を進めていく。修学旅行や各種スポーツ大会・合宿等の誘致については、受入体制の充実を図りながら、情報発信を行っていく。

**野口議員** マーケットの変化に対応するためには、田舎・外海離島のハンディをいかし、創意と工夫を凝らしながら、いかにして都会の住民の心を引き付け夢中にさせる魅力づく

りを進めていくかが大きな課題となっている。メディアが取り上げたくなる環境の整備が必要であると痛感されるが、具体的な対策をどう考えているか。

**町長** 島独特の景観や風習に加え、自然だけではない島の人の交流など、多種多様な魅力が発信されることで、「行ってみたい」という気持ちが増していくものと考えている。今後、魅力ある景観づくりに努めながら、メディアへの積極的なセールスの展開とその誘致による情報発



公園整備が進む大金久海岸

信に努めていく。

## ストップ少子化・子育て支援対策

**野口議員** 島外で出産する場合の交通費と宿泊費に対する助成を、一層拡充していく考えはないか。

**町長** 今後、交通費や宿泊費の負担を軽減することができるよう、県に支給基準の拡大を要請して町独自の助成策も検討し、支援制度を拡充していく。

**野口議員** 子育て支援対策の一環として、幼児の保育等に従事していることも園の充実の必要性が痛感されるが、意欲をもって働くことができるよう正規職員を増員するとともに、臨時職員の待遇を改善する考えはないか。  
**町長** 最近では、平成27年度に3人、平成28年度は2人を採用し

た。平成29年度以降も年次的に採用したい。また、臨時職員の賃金は、平成28年度に一律引き上げるが、平成29年度以降は、経験年数や他職種との均衡等も検討しながら、待遇の改善を図っていきたい。

**野口議員** 義務教育期間終了時までの子供の医療費助成は、有効な子育て支援策になると痛感されるが、シンクタンクを設置・活用して、必要な財源の確保を図ることなどにより、子育てに係る医療費を助成していく考えはないか。

**町長** 医療費支援の充実には、子育て支援の観点から重要であると痛感しており、提案のシンクタンクの設置・活用についても必要不可欠であると認識している。今後、支援策の拡充について検討したい。

# 人口減少と超高齢化社会に歯止めを

## 町長 協働によるいきがいつくり等事業の展開を図っていく。



林 敏治議員

### 地方創生対策

**林議員** 人口減少と超高齢化社会に歯止めをかけ地方を創生するためには、早急な取組の必要性が痛感されるが、具体的にはどのような手順で、どう計画的に推進していく考えか。

**町長** 若者をターゲットとした島内外の活発な交流人口の拡大、安心して暮らせる居住環境の創出、協働によるいきがいつくりなどの施策を重点化し、事業の展開を図っていく。

### 廃屋の撤去対策

**林議員** 本町は観光地であることから、島の個性で魅力あふれる

恵まれた美しい景観を維持・保全するため、これを著しく阻害し、かつ、防火・防犯上も問題のある廃屋を解体し撤去していく考えはないか。

**町長** 周辺の景観を著しく阻害している廃屋や防災・防犯上不適切な状況にあると認められる廃屋については、解体・撤去に要する経費に対し60万円を限度に、3分の2に相当する額を補助している。現在、問題のある廃屋等幾つかあるので、所有者の事情等を調査確認し対策を検討していく。

### 共同墓地の整備

**林議員** 近年、少子高齢化や人口減少などで墓の在り方や価値観も多様化してきていることから、墓がない場合には、希望すれば島内外からその利用を申し

込むことのできる共同墓地（納骨堂）を整備していく考えはないか。

**町長** 少子高齢化が進み、人口減少や核家族化が進展していくにつれて、先祖の墓を子孫が守っていくことも難しい時代となってきたので、共同墓地（納骨堂）を今後整備していくことは必要であると考えている。まずは、近隣市町村等の先行事例を調査・研究し、設置費用や維持管理費・運営方法等について検討していく。

### 緊急医療体制の整備

**林議員** 奄美にドクターヘリが導入されるが、本町では、沖縄県のドクターヘリや自衛隊のヘリを利用しての実情にある。同じ離島やへき地ではあっても、奄美大島を中心とする緊急医療体制とは様々な点で異なること



ドクターヘリ

から、地理的に不利な条件下にあることで、離島の谷間となり、緊急医療面で取り残されていかないか懸念される。今後、関係機関と緊密な連携を図りながら、緊急医療体制の充実の必要性が痛感されるが、対策をどう講じていく考えか。

**町長** 平成28年12月の県立大島病院のドクターヘリのエリアは、トカラ列島、十島村を含め与論までである。しかし、現実的には、平成18年から沖縄県のドクターヘリが奄美で利用可能となり、本町と沖永良部島、徳之島まで運航している。本町と

しては、沖縄県へのドクターヘリによる搬送を継続して要望し、安心・安全な救急医療体制の充実に努めていきたい。

### 自衛隊訓練場の誘致

**林議員** 本町を自衛隊の訓練場・保養地にすべく、積極的にその誘致を図る考えはないか。

**町長** 誘致を推進する場合には、町民のコンセンサスを得ることが最も重要であることから、今後の誘致活動の動向や町民の自衛隊誘致に対する機運の高まりなどを見極めた上で検討していきたい。



自衛隊（総合グラウンド）

# 永続性のある子育て支援策を

町長 先行事例を参考にしつつ負担軽減策を検討したい。



喜山康三議員

## 出産・子育て支援策の拡充

**喜山議員** 現在、出産・子育て世代には様々な支援が行われているが、今後、消費税の増税や介護保険料の上昇等新たな社会負担を強いられ、家計の負担は格段に増加していくと推察される。このため、出産から高校卒業までの18年間に加えて、大学進学等による家計負担の軽減が図られるよう、永続性のある思い切った支援策の創設等が喫緊の課題であると痛感されるが、町長は基本的な対策をどう考えているか。

**町長** 支援策の先行事例等を参考にしながら、財政的に許容できる範

囲内で、永続性のある負担軽減策を前向きに検討していきたい。

## 街づくり

**喜山議員** 街づくりとはにぎわいを醸し出すことと言ってもよい。にぎわいのシンボルとして庁舎の役割は極めて重要であると考えますが、町長はどのように認識しているか。

**町長** 庁舎は地域の核となる施設であることから、周辺環境と調和のとれた景観形成や中心市街地などと一体と



中央通り

なったまちづくりの拠点となる役割も担っており、多くの町民や観光客など、来訪者が行き交う「にぎわいのシンボル」としても、庁舎の果たす役割は大変重要であると認識している。

**喜山議員** 公共交通の在り方と街づくりは表裏一体の関係にあることから、街の盛衰に大きな影響を与える主要な問題であると痛感されるが、本町の公共的な交通政策をどう推進していく考えか。

**町長** 近年、人口減少や自家用車等の普及により、定期路線バスの利用者が激減していることから、利用率の向上や公共交通としての機能維持を図るための方策については再検討する必要があると考ええる。特に、高齢者や自家用車等が利用できない交通弱者の利便性向



定期路線バス

上を図るための方策や、観光客など来訪者の移動に配慮した公共交通の在り方については、重点的に検討する必要があると考える。今後は、協議会等を組織して調査分析等を行いながら、地域の実情に合った交通システムの構築に取り組んでいく。

## 公共施設建設等事業の進め方

**喜山議員** 多目的運動広場、いわゆるサッカー場は、計画・着工されてから数年以上が経過している。町長は、公共施設の建設等の事業計画や予算確保の在り方についてはどう考えているか。

**町長** 公共施設建設等の事業計画は、第5次町総合振興計画の実施計画や、陳情が採択された事業についてはその規模に応じて、実施可能期間や財源の裏付けなどを慎重に調整し、年次の計画を策定している。

予算の確保は、計画した事業に係る補助金やその他の歳入財源を最大限確保することとし、起債の発行を伴う事業は、有利な起債の活用を図るなどの財政措置を講じている。

今後の大型事業の推進に当たっては、特に公共施設の統廃合や規模縮小等の必要性を考慮しながら、単年度に財政支出が集中しないよう事業費の平準化を図るなど、適正な事業計画による財政運営に努めていく。

# こども園の協働体制の構築・強化と支援を

町長 地方創生事業を活用し支援の充実を図っていく。



麓 才良議員

子育て・子育て支援対策

**麓議員** 施政方針の中で、「こども園・小学校・中学校・高等学校との連携を充実させ、心の教育、ユニフトゥバ学習、英語学習などにおける一貫した教育の推進に努める。」とあるが、子育て・子育て支援を充実させるため、こども園に保護者の集いを組織し、情報の共有、課題の研修等を行い、小・中・高のPTAとの協働体制を構築・強化し支援していく考えはないか。

**町長** 現在、こども園では、各クラスの保護者の中から会長・副会長を選任して、主に園



ハレルヤこども園

内の諸行事の開催時に準備・運営等について協力をお願いしている。小・中・高のPTAのような組織体制はないが、教育委員会、子育て支援担当課及び保健センター等で連携を図り、情報の共有に努めている。

今後、地方創生の子育て支援・福祉促進事業等を活用した研修会や講演会を開催し、こども園・小学校・中学校・高等学校の枠を超



与論こども園

えた支援について、相互に学び合い、連携を深めて、子育て・子育て支援の充実を図っていく。

**麓議員** こども園の保護者やこども園に通園させていない保護者も支援対象に含めた上で、保護者の集いをコーディネートする担当には子育て支援員や適任者を委嘱し、協働体制の環境を整備・充実していく考えはないか。



那間こども園

**町長** 全ての子育て世帯が、支援事業を円滑に利用できるような情報の提供や相談の支援・関係機関との連絡調整等を行っているところである。今後、子育て世帯の要望や個別のニーズを拾い上げ、更に子育て支援を充実していくためには、公的な機関だけではなく、子育て支援員や子育てコーディネーターによる、保護者にとって身近で集いやすく、日常



茶花こども園

的に利用でき、かつ、当事者目線による、寄り添い型の支援を行うことのできる相談機能を持った民間施設の設置運営が必要であると考えている。

子育て支援員・子育てコーディネーターを養成・確保しながら、一人一人の子どもが健やかに成長することができるよう地域社会を実現するため、子育て支援の充実に向けて取り組んでいく。

わたしもひとこと



永井新孝氏

観光の再生と目指して

プロフィール
氏名 永井新孝
住所 与論町東区
職業 ヨロン島観光協会会長

今年で25回目を迎えたヨロンマラソンも、無事に終えることができました。これもひとえに全国各地から参加いただいたランナーをはじめ、多くの町民・ボランティア、関係各位の御協力のお陰様であり、深く感謝申し上げます。

皆さま。ミッシーク・トートウガナシ(誠にありがとうございました)。

さて、私も昨年5月の総会において、会長に選出されてから、約1年を迎えました。

近年、ヨロン島の集客を引く張つてきた大型ホテルが相次ぎ閉館を余儀なくされてきた中で、昨年は入込客数が対前年比で7259人の増となり、年間で6万人台まで持ち直すことができ、関係者一同胸をなで下ろしたところでもあります。

その要因としては、ベストセラー「死ぬまでに行きたい!世界の絶景」日本編の著者である詩歩さんが、ヨ

ロン島に来島し、テレビ朝日の番組「グッドモーニング」で百合ヶ浜をレポートされ、「300パーセント良かったです。」との感想を述べてくださったあたりから、度々マスコミで報道されるようになったことが、特に大きかったと思われま

す。島を出た子供たちから、「ヨロン島出身だつて、羨ましいな。」とか、「最近はお客さんの姿が目につくね。」と言われたとのうれしい便りを耳にすることもあります。

今年もこの流れを持続できるよう町当局及び関係機関と緊密に連携しつつ、当協会の各般にわたる事業を積極的に推進してまいりたいと考えております。

昨年は、接遇研修を実施しましたが、今後も島の現状と課

題に即した研修等を重ねて、来島者を温かく迎え、過去の接客等の轍を踏まないよう気を引き締めて取り組んでまいりたいと考えております。

ヨロンマラソンに参加されたランナーをはじめ、修学旅行で訪れた生徒たちからは、街灯のない真つ暗な道や星空の美しさに驚いたことに加え、道を尋ねたら丁寧な教えてくれたことや小学生の子供たちの挨拶に感動したことなど、人の温かさが感じられ、とても感動したとの感想が数多く寄せられています。



ソデイカのウインナー等

町民一人一人の心のもった接客がリーダー客を生み、島の観光を支えているのだと実感し感謝している次第であります。

観光協会の理事には、漁協・JA・商工会・信金等各種団体の長に参画いただいておりますが、1月の新年会では、島内産のソデイカのウインナー・つけ揚げやドラゴンフルーツ入りの島ドレッシング等を試食させていただきました。その後は、早速修学旅行やヨロンマラソン時に活用するなど、PRに努めているところでもあります。

最後に、我が島の観光産業の振興と町勢の発展のため、微力ながら力を尽くしてまいりたいと考えておりますので、今後とも一層の御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

ようやく、さとうきびの収穫も終わり、収穫後の根切り排土や肥料の散布が行われるようになった。今年

は2万6706トンの収穫で去年より約3740トンの増産となった。

生産牛も好調で3月2日のセリ市では、全体で平均68万7638円で取引され、1月のセリ市より3万3891円の高値であった。このまま好調に推移することを期待したい。

これまで7年半の長きにわたり議会事務局長を務めた川畑義谷氏が今年3月31日で定年退職となり、後任に川上嘉久事務局長代理が誕生した。書記には喜村一隆が任命され、市来絵梨補助職員を含めた3人で議会と監査の事務局を担当することとなる。

ここに第119号を発行できたことを、町民及び関係各位に感謝申し上げます。(福地)